

平成23年度実施分 助成事業評価審査

NO	団体名	事業名	コメント
1	デフィブリーるの会	「AEDの正しい使用法を広めたい」事業	この団体が「AEDの普及に比べて、実際に使える人が少ない」という課題の設定と使用の広報活動は的を射ており評価できる。現実に関心がある人がいることを想定しての講習とするなど実用性が高い。更なる普及浸透を図るために、行政との連携・協力を進めて欲しい。
2	松戸里やま応援団 一起の会	八ヶ崎の森再生整備事業	地域密着型の里山活性化事業として評価できる。森の管理技術は相当蓄積してきたと思われるので、今後は周辺住民との関係づくりにも力を注ぎ、広く市民に支持される活動への展開が望まれる。また、助成事業の枠組みを超えて、協働を含め、行政との対話や連携による発展を期待する。
3	松戸里やま応援団 三樹の会	若者と協働の森づくり	森づくり活動の継続や成長の点から、次世代の担い手に「若者」を巻き込む着想は評価できる。あとは参加者の関心をどのように維持していくのか、更に工夫し継続することが望まれる。また、助成事業の枠組みを超えて、協働を含め、行政との対話や連携による発展を期待する。
4	松戸里やま応援団 「七喜の会」	「紙敷石みやの森」 保全事業	周辺住民や地域の学校や保育園などの他の団体との関係構築が進んでいることが評価できる。安心して親しめる里山保全活動が自立できることが望まれる。また、助成事業の枠組みを超えて、協働を含め、行政との対話や連携による発展を期待する。
5	香実会	五香、六実地区歴史再発見事業	歴史の発掘を通して「地域の宝」を磨きあげることが、地元住民の自信と誇りを喚起し、地域づくりの原動力となる基本的な活動であり評価できる。今後は、地域住民を活動に巻き込むこと、あるいは他の地域からの来訪を促すことのいずれに重点を置くかで、活動の方向が変わってくることもあり得るが、さらに良い事業となることに期待したい。
6	バリアフリーまつど市民会議	福祉のまちづくり推進のためのシンポジウム・先進地見学事業	バリアフリーの視点から防災を考える問題意識は評価できる。今後は、活動の記録等を活かして市民の生活目線で松戸市のバリアフリーのまちづくりに反映できるように期待する。
7	クリニカルアートをひろげる会	芸術による認知症予防及び進行抑制のための事業と認知症高齢者の介護者への支援事業	アートと認知症の取り合わせの発想が素晴らしく、市民活動を0から起こし、取り組みを着実に進めていることが評価できる。認知症防止策の1つとしてのクリニカルアートを広めるなど、今後の活動の展開に応じて、実績データの充実を更に図って欲しい。

平成23年度実施分 助成事業評価審査

NO	団体名	事業名	コメント
8	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 J ワールド	Jキッズ 子どもまつり事業	ボランティアが自分で考え、自分で取り組む子供たちの自主性サポートが評価できる。今後は、中高生たちをイベント運営の担い手として巻き込み、団体の組織力（スタッフや資金の確保など）を強化し、助成事業からの自立を果たされることを期待する。
9	まつど「1/4の奇跡」上映実行委員会	「宇宙の約束」上映と山元加津子氏講演会事業	映画や講演などを多くの方に届けるために大変な苦勞を費やしたことが想像でき、助成事業の「資金と信頼」を有効に使ったことは評価できる。ただ、上映会に対する交流会の位置づけと内容がやや弱く感じたことは惜しまれる。今後は、ワークショップ等の場を作り、各方面への架け橋となることを期待したい。
10	不登校問題を考える東葛の会「ひだまり」	不登校の理解を深める本の作成と配布事業	「不登校」という大変難しい課題に対し、本の作成を通して当事者や親の体験と思いを多くの人々へ伝えた貴重な活動であり、改めて助成事業の意義を認識する。今後は、本を読んで気がついたこと学んだことを周囲でどのように共有し、実践に移していけるかが課題となる。地域社会や学校等と連携し、この冊子を有効に使う活動を期待したい。
11	まつどサロンネットワーク	まちづくりコラボサロン	この「サロン」は、かなり高等な仕掛けであり成果が出にくく、門戸を開いている反面、焦点が見えづらくなっているのが気付きではある。ネットワーク作りという、重要な課題に「サロン」という敷居を低くした形態で取り組む活動は評価でき、面白い試みであると思う。本事業のような場と機会が増えることを期待する。
12	NPO法人子どもとまつど	手と手で話そうPart 2	子どもと障がい者の交流によって劇を創りあげたことは素晴らしい。4回の発表を実現できたことは評価できる。資金面の課題を克服するために、活動の内容をPRしたり、事業の工夫によって支援者（資金の協力者）を増やすなど協働を含め、行政との連携を図りながら発展して欲しい。
13	松戸生活やくだちたい	生活に役立つ「暮らしとお金」のセミナーと相談会	ニーズは一定数あるものの、実際に相談にいたる信頼感をどう醸成していけるかが課題である。各方面の働きかけや利用者のニーズを踏まえた入り口づくりを期待したい。資金面で自立するために有料制を採用するなど受益者負担による事業設計は評価する。コミュニティビジネスとして成立するよう期待したい。
14	男女共同参画推進グループ ファミリーサポート 勇気づけ	健康な心を育む勇気づけの対応	「勇気づけ事業」は素晴らしく、受講料等の収入で充分自立可能な事業と評価する。しかし毎回の講演会や、セミナーの参加者数が少なく、対象者へ情報が伝わっていないのか、活動内容が理解されていないのか、原因を分析することが重要である。助成金の活用だけでなく、様々な団体や行政と繋がりを持って活動を広げることが期待する。